

熱性けいれん発作の時の対処方法・注意

- 1) あわてずに、患者の衣服をゆるめ、周囲の危険物を除き、体を揺すったりしないでください。
- 2) 枕は除き、頭部を横に向けて下さい。体全体を横に向けてもよいです。
- 3) 口の中に無理にスプーンや指を入れてこじ開けないでください。歯が折れたり、指をかまれたりして危険です。
- 4) 発作の持続時間および発作の状態を冷静に観察して下さい。

<観察事項>

(1) どのような、けいれんなのか？

- <・強直性(きょうちよくせい) — 息を止めて、手足が突っ張るように硬くなる。
- <・間代性(かんたいせい) — 手、足、顔をガクガク動かし、まぶたもピクピクする。

(2) 意識はあるのか？

(3) 何秒～何分けいれんが続いたのか？

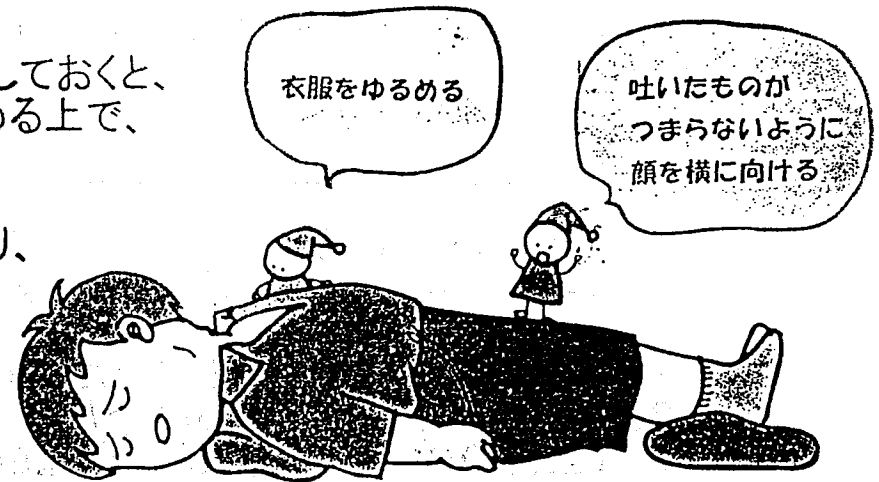
(4) 顔色、目の動き、唇の動きはどうか？

* (1)～(4)のことを、よく観察して、記録しておく、
受診時に医師の診断や治療方針を決める上で、
大変参考になります。

(5) けいれんの後、しばらく意識がボーッとしたり、
眠ったりすることがありますが、数十分で
元に戻れば心配ありません。

5) 次のようなときは、必ず受診して下さい。

- (1) けいれん発作が、10分以上続くとき。
- (2) 短時間の発作が、何回も起こり、この間、意識が戻らないとき。
- (3) 初めてのけいれん発作で、特に、6ヶ月未満の乳児の熱性けいれんのとき。



あごを伸ばして呼吸を楽にする